

【洪水(水害)対策について】

最近、全国各地で水害が相次いでいます。

気象観測システム（アメダス）の記録からは、全国での大雨や豪雨が30年前の約1.5倍に増加しているようです。

また、過去10年で全国の市町村の97%が水害や土砂災害の被害にあっている状況です。

静岡県内でも昨年9月に台風15号の影響により、豪雨があり、島田市内でも道路の冠水や住宅への浸水被害があったことも皆さの記憶に新しいところだと思います。

そのとき、エコトープでは、ベランダの排水管に異物が詰まり、あふれた水が2階フロアに浸入し、夜間に職員が駆け付ける事態となりました。

エコトープの開設以来、雨そのものによる直接の洪水浸水被害は、幸いにも1度もない状況ですが、最近の気象状況からも想定外が起きかねません。

簡単ですが、水害対策についてまとめてみました。

1. 過去の大井川の主な災害についてです。

①～⑥ページの資料をごらんください。

大井川上流は、静岡県下では、伊豆の天城山と並んで降水量が多い地域で河床勾配（かしょうこうばい）が大きいことが、水害の一つの要因となっているようです。

今から 433 年前の 1590 年（天正 13 年）にエコトープから北東に約 3 キロの場所にある「牛尾山」を切り崩して堤防を築きましたが、江戸、明治、大正、昭和と大井川流域では、度重なる洪水が相次いだようです。

最近では、強靱な堤防整備、ダムの建設で水防対策を確立させたこともあり、大きな水害は発生していません。

2. 過去の島田市内の水害について

⑦ページをお願いします。

1959 年（昭和 34 年）今から 64 年前の 8 月 26 日の豪雨で旧金谷町内を流れる大代川が決壊しています。

旧金谷町内でも死者や負傷者が出るなど甚大な被害が発生しました。

昨年 9 月 23 日の豪雨と比較しますが、金谷地区 1 時間当たりの雨量では今年の豪雨は 1 時間当たり 87mm ですが、昭和 34 年の豪雨は、1 時間当たり 120mm で約 1.4 倍も雨量が多い状況で、大雨の規模の違いがわかるかと思えます。

3. ⑧ページをお願いします。

洪水から身を守るための警戒レベルについてですが、
1～5段階の警戒レベル分けがされています。

令和3年5月20日より避難勧告は廃止され、避難指示で必ず避難となっています。

静岡県内では、今年6月2日に袋井・磐田・沼津に警戒レベルの最も高い緊急安全確保が発令されています。

4. 洪水時の避難についてです、⑩ページをお願いします。

これは、島田市のエコトープ周辺の洪水ハザードマップです。
赤の○がエコトープです。

万一、洪水等による避難となった場合は、この島地区の方々は、島田市指定のエコトープ北側にある「夢づくり会館」へ避難となっております。

ただ、当施設の洪水時の避難確保計画では、
この場所は0.5m（50cm）未満の浸水域となっていますが、
鉄筋コンクリート造りで倒壊の恐れがないこと、

また、3階建てであり、かつ入所者は2階以上に居住していること、
施設内に必要な物資が備えられていることから、原則として屋内（施設内）
避難としています。

ただし、建物倒壊の恐れがある場合は、施設北側の「夢づくり会館」へ避難することとしています。

以上となりますが、施設周辺だけでなく、皆さんの自宅周辺もハザードマップ等で地域の洪水リスクを知っていただき、今後の洪水対策に生かしていただきたいと思います。



過去の水害

TOP > 治水・利水 > 過去の水害

治水事業の沿革

水利用の状況

治水対策と渇水

過去の水害

大井川では古文書の記録で確認されるものでも藩政時代から幾度となく大規模な洪水被害に見舞われています。

また、概ね大宝令時代までには現在の流路をとっていましたが、出水のために旧流路にも洪水は流れ込み、大井川平野は明治末期まで洪水常襲地帯でした。

急峻な地形と流域形状から洪水流量は短時間の強い雨によって支配される傾向にあり、過去の出水は降雨の集中度の大きい台風を原因とするものが多くみられます。

■ 近年の主要洪水の概要

昭和54年10月台風20号出水（10月19日）

10月6日にトラック島の南東海上で台風第20号が発生しました。井川観測所では日降水量358mmを観測し、静岡県全県下で被害を受けました。床上浸水7戸、床下浸水10戸、流失畑0.2ヘクタール、冠水畑13ヘクタール、決壊堤防13箇所、橋梁1箇所、崖崩5箇所被害がありました。



千頭地区



本川根中学校付近の工場

昭和57年8月台風10号出水（8月3日）

7月24日に日本の南東海上で台風第10号が発生しました。静岡県中部を中心に全県下に被害があり、島田市の被害は全壊3戸、半壊4戸、床上浸水416戸、床下浸水975戸などでした。

金谷町では行方不明1人、負傷者1人、床上浸水273戸、床下浸水1,081戸でした。

山間部を中心に日雨量400mm程度の降雨を記録し、は橋などが流失し、道路が寸断、数日間にわたり井

アンケートに答える





高郷地区



支川川根長尾川合流点付

昭和57年9月台風18号と前線による洪水

1) 気象概況

昭和57年9月6日午前9時グアム島の西南西の海上で発生した台風18号は、発達しながら北西に進み、9日午前9時には南大東島の南東約600kmの海上で、中心気圧950ミリバール、中心付近の最大風速40m/sの大型で強い台風となり最盛期となった。

2) 現象の特長

台風の接近に伴って、12日夜半すぎから強い雨が降り、午後からは、中伊豆地方の湯ヶ島、天城山で1時間70mmを超え、牧ノ原では13日16～17時までの1時間に91mmの豪雨が降った。

3) 被害概況

台風が御前崎に上陸し、静岡県を縦断したため、大きな被害を受けた。人的・家屋の被害をはじめ、道路の損壊等、公共土木施設及び農林水産業施設に大きな被害を与え、農林物産、商工業にも先の台風10号に引き続き、甚大な被害が生じた。



昭和57年9月洪水の浸水被害状況（出典：大井川水系中流七曲りブロック河川整備計画）

平成3年9月台風18号・秋雨前線出水（9月19日）

9月19日に台風18号が静岡県全域に大雨を降らせ、水窪町では時間雨量88mmを記録しました。

本川根町では建設中の長島ダムの「仮締切」が半壊 **アンケートに答える**

ルの切断により、市外通話が不能になりました。床上浸水52戸、床下浸水18戸の被害となりました。



千頭地区



桑野山地区

平成12年9月12日洪水(台風、秋雨前線)

東海地方に東西に伸びた前線が停滞し、この前線に向かって台風14号からの大量の湿った空気が流れ込んだため、大井川流域中上流域を中心に大雨となり、井川観測所では500mmを越える雨量を記録しました。



島田市大柳右岸8.8km付近

平成15年8月台風10号による洪水

台風10号は、3日15時にフィリピンの東海上で台風となり、7日午後には中心気圧945hPa、最大風速40m/sと大型で強い勢力となって、次第に北北東に向きを変えて、8日早朝にかけて奄美諸島沿いに進んだ。8月7日～9日にかけては、台風の影響で南西諸島から本州付近の広い範囲で大雨となった。

川根本町では日降水量が233mmに達するなど、記録的大雨となった。



平成15年8月台風10号による浸水被害状況（青部地区）（出典：大井川水系中流七曲りブロック河川整備計画）

平成23年9月台風12号による洪水

台風12号は、25日9時にマリアナ諸島近海で台風となり、30日3時には小笠原諸島父島の西南西の海上に発達し、大型で強い勢力となった。

台風が四国沖に進んだ2日頃から、川根本町など山間部を中心に断続的に雨が激しくなり、4日昼過ぎまで激しい雨が降り続いた。最大72時間降水量が川根本町で年の極値を更新するなど記録的大雨となった。

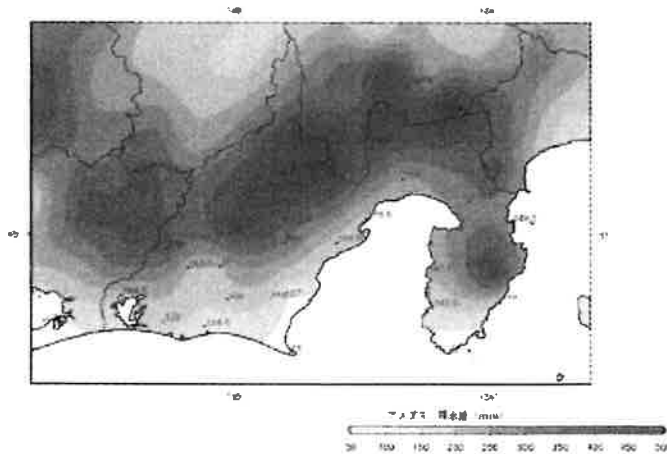


平成23年9月台風12号洪水の状況（出典：大井川水系中流七曲りブロック河川整備計画）

平成23年9月台風15号による洪水

13日21時に日本の南で発生した台風15号は、日本の南海上を北西に進み、19日21時に奄美大島近海で強い勢力となった。

19日19時頃から山間部を中心に雨が降り始め、静岡県を抜けるまで非常に激しい雨が降り続いた。最大24時間降水量は、川根本町で399.5mmを観測し、9月の極値を更新するなど記録的大雨となった。



積算雨量分布図（9月19日19時～9月21日24時）出典：平成23年台風15号に関する静岡県気象速報（出典：大井川水系中流七曲りブロック河川整備計画）



平成23年9月台風15号洪水の状況（出典：大井川水系中流七曲りブロック
河川整備計画）

静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課

〒420-8601静岡県静岡市葵区追手町9番6号

電話番号：054-221-3038 FAX：054-221-3380 E-mail：kasenki@pref.shizuoka.lg.jp

しずおか河川ナビゲーションTOPへ

[このサイトについて](#) | [著作権・免責事項](#) | [個人情報の取扱いについて](#) | [河川用語集](#) | [サイトマップ](#)

過去の水害(島田市)

西暦	年号	原因	記事
1959	昭和34	低気圧・ 温暖前線 台風	8/26～27 総雨量(島田)376mm(金谷)380mm(1h雨量120mm、3h雨量243mm) 栃山川、東光寺谷川、大津谷川、伊太谷川、相賀谷川、大代川の堤防決壊御飯屋町、大草、相賀、野田、落合の橋流失、(島田)負傷3、行方不明者1、全壊8、半壊14、流失8、床上浸水3,000、床下浸水6,000、(金谷)死者1、負傷113、全壊11、半壊26、一部破損6、流失8、床上浸水2,344、床下浸水2,400 9/26 伊勢湾台風 総雨量100mm以上 (島田)全壊2、半壊21、床上浸水7、床下浸水1
1960	昭和35	台風・ 寒冷前線	8/12～14 総雨量600mm～700mm(1h雨量50～70mm) 大井川13日21時神座水位2.9m、伊久美川の氾濫で川口橋流失、伊久身部落の山津波、蓬萊橋流失、(島田)死者16、負傷7、軽傷29、全壊27、半壊42、流失7、(金谷)床上浸水70数戸、(川根)死者5、行方不明者2、全壊15、半壊24、流失埋没10、床上浸水155、床下浸水390
1961	昭和36	豪雨・ 梅雨前線	6/23～29 36.6豪雨 総雨量423mm 伊久美川増水、伊久身(犬間・長島他)仮橋流失4、(長島)土砂崩れ交通途絶、(二俣・白井)床下浸水5、神座で大井川決壊、大井川鉄橋橋脚流失、(金谷)白光川氾濫、床上浸水6、床下浸水10
1965	昭和40	台風	9.16～17 台風24号 総雨量300mm (島田)死者1、負傷者1、行方不明者2、道路決壊8、堤防決壊3、農林道決壊4、住家一部破損113、学校一部破損23、農地一部流没2ha
1969	昭和44	台風	8/4～5 台風7号 (島田)負傷者3、全壊1、半壊2、床上浸水1、床下浸水34、一部損壊4、非住家2、畑埋没2、畑冠水4、道路損壊5、橋梁流失1、堤防決壊1、山崩れ23、鉄道4、罹災世帯5、罹災者数19
1979	昭和54	台風	10/19 台風20号 (島田)軽傷者2、全壊3、一部破損60、床下浸水2、非住家公共建物3、その他45、文教施設2、砂防1、罹災世帯数3、罹災者数8
1980	昭和57	台風	9/11～12 台風18号 総雨量521mm (島田)全壊7、半壊5、一部欠損8、床上浸水374、床下浸水976、護岸決壊36、橋梁流失18、水稲倒伏200ha、水田冠水270ha、田土砂流入40ha、畑土砂流入10ha
1998	平成10	台風 前線	9/21～22 台風8号 総雨量174mm 蓬萊橋橋脚1本流失 9/23～24 総雨量230mm (島田)床上浸水18、床下浸水140、水田埋没0.09ha、水田冠水1.55ha、道路通行止5、橋梁通行止1、山崩れ2、水道断水75、避難1地区14世帯49人
2019	令和元	台風	10/11～12 令和元年東日本台風(台風第19号) 10/12 22:00時点 積算雨量 島田(道悦)434mm 一部損壊3、床上浸水7、河川溢水2、倒木、崩土多数、 10/12 18:30 第一次指定避難所39箇所開設、420世帯967人が避難
2020	令和2	前線 集中豪雨	6/30～7/2、7/4～7/10、7/26～7/28 梅雨前線が華中から九州付近を通して東日本に停滞した影響から豪雨となった。また、7月下旬には初倉地区で線状降水帯が発生し、床上、床下浸水が発生するなどの被害が発生した。 時間雨量最大：島田地区25mm/h、金谷地区35mm/h、川根地区38mm/h ※富士山静岡空港 59.5mm/h 初倉地区：床上浸水2件(住家1、工場1)、床下浸水10件(住家8、店舗2)
2022	令和4	集中 豪雨	9/23～24 台風15号に伴う大雨により、市内各地で浸水害や土砂災害等の被害が発生し、災害救助法の適用となった。 時間雨量最大：島田地区126mm/h、伊久美地区127mm/h、金谷地区87mm/h、川根地区88mm/h、塩本地区108mm/h、笹間地区107mm/h。国道473号及び県道蔵田島田線等が通行止めとなり、半壊8件、準半壊18件、一部損壊(床上浸水46件、床下浸水109件、その他9件)の被害があった。

Evacuation
Information
(Revised)

令和3年5月20日から

ひなんしじ

避難指示で必ず避難

ひなんかんこく

避難勧告は廃止です

警戒レベル

4

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫	きんきゆうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~			
4	 災害の おそれ高い	ひなんしじ <b>避難指示</b> ※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 災害の おそれあり	こうれいしゃとうひなん <b>高齢者等避難</b> ※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	 気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 今後気象状況 悪化のおそれ	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、  
すでに安全な避難ができず  
命が危険な状況です。  
**警戒レベル5緊急安全確保の  
発令を待ってはいけません!**

避難勧告は廃止されます。  
これからは、  
**警戒レベル4避難指示**で  
危険な場所から全員避難  
しましょう。

避難に時間のかかる  
高齢者や障害のある人は、  
**警戒レベル3高齢者等避難**で  
危険な場所から避難  
しましょう。

Evacuation  
Information  
(Revised)



Scan to get this information in your own language.

English	简体中文	繁體中文	한국어	Español
Português	Tiếng Việt	ភាសាខ្មែរ	ภาษาไทย	မြန်မာစာတမ်း
Tagalog	Bahasa Indonesia	नेपाली भाषा	Монгол хэл	QR Translator

内閣府(防災担当)・消防庁





ひなん  
「避難」って  
何すれば  
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけ  
が避難ではありません。  
「避難」とは「難」を「避」けること。  
下の4つの行動があります。



行政が指定した避難場所  
への立退き避難

自ら携行するもの  
・マスク  
・消毒液  
・体温計  
・スリッパ 等

小・中学校  
公民館

安全な親戚・知人宅  
への立退き避難

普段から災害時に避難  
することを相談して  
おきましょう。  
※ハザードマップで安全か  
どうかを確認しましょう。



普段から  
どう行動するか  
決めておき  
ましょう

安全なホテル・旅館  
への立退き避難

通常の宿泊料が必要  
です。事前に予約・  
確認しましょう。  
※ハザードマップで安全か  
どうかを確認しましょう。

ホテル  
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の  
「3つの条件」を確認し  
自宅にいても大丈夫かを  
確認することが必要です。

想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある  
区域では立退き避難が  
原則です。



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない  
(入っていると…)



流速が速いため、  
木造家屋は倒壊する  
おそれがあります



地面が削られ家屋は  
建物ごと崩落する  
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3-4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、  
水・食糧などの備えが十分  
(十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる  
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の  
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。



# 図解 12

## ▶ 洪水想定区域

- 20.0m以上
- 10.0m～20.0m未満
- 5.0m～10.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 0.5m未満

早期の立退き避難が必要な区域

## ▶ 土砂災害警戒区域等

- 【けずれ・崩れ(急傾斜地の崩壊)】
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 【土石流】
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 【地すべり】
- 土砂災害警戒区域

## ▶ その他

- 市界
- 防災関連施設・機関
- 指定避難所 (全ての路が使用可能)
- 指定避難所 (一部使用可能)
- 指定避難所 (水害時の使用は適さない)
- 避難地(指定緊急避難場所)
- 消防署
- 警察署
- 交番
- 市役所
- 災害拠点病院・救護所
- 地下通行路
- 【避難地点】
- 水位計
- 雨量観測所
- 河川カメラ

